

ごあいさつ

若者 UP アドバイザリーボード代表
放送大学教授 宮本みち子

長引く不況による就職難のなかで、無業の状態にある若者を就職に向けて支援することはますます重要になっています。無業の若者のなかには、ワードやエクセルなど、就職に当たって必要とされるスキルを身に付ける機会に恵まれなかった人たちがいます。背景には家庭や学校その他の諸事情があるのです。それが就職することをさらに難しくしています。コミュニティ IT スキルプログラムは、このことに着目したものです。日本マイクロソフト株式会社が地域若者サポートステーションと協働で実施し、参加した無業の若者の半数を就職させることに成功するという大きな成果をあげることができました。

今回の事業が成功したのは、日本マイクロソフト社、地域若者サポートステーション、国など複数のステークホルダーの連携体制が効果を発揮してことが重要です。

- 1) 日本マイクロソフト社が、CSR として恵まれない若者の支援のために自社の資源を提供したこと。
- 2) 地域若者サポートステーション（通称サポステ）が、無業の若者のカウンセリング、生活基礎訓練、仕事体験などで土台を固め、IT スキルプログラムに参加しようという動機づけに成功したこと。
- 3) 若者の実態を熟知したサポステスタッフが、指導のためのマニュアル作りに取り組み、困難な諸条件を抱える若者に対して適切で有効な指導ができたこと。
- 4) 厚生労働省キャリア支援室、サポステ中央センターをはじめとする公的機関が、プログラムの成功を背後で支えたこと。

能力開発の機会に恵まれない若者を放置すれば、これらの若者はその後も長期失業やニートの状態から脱することができなくなってしまいうでしょう。私たちは、若者がいつでもどこでも潜在的能力を開発する機会に恵まれ、やり直しができる社会をめざすべきです。そのためには、国・地方自治体と企業と民間団体が、もてる資源を提供し、協働することが求められます。

この事業が今後いっそう広がっていくことを期待します。